

絆

K I Z U N A

2020 AUGUST

JAグループ青森 月刊広報誌 [884号]

8



第39回青森県

作品募集



「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール



令和元年度 第38回青森県コンクール 青森県知事賞受賞作品
「おばあちゃんのちらしずし大好き」
青森市立浜田小学校 4年 丹羽 望さん

毎日のごはんでおいしかったことや
家族とのコミュニケーション、
お米・ごはん食に関する思い出や
考えたことなどを素直な気持ちで
自由に表現してみてくださいね！



©みんなのよい食プロジェクト

応募締切

令和2年 8月31日(月)

応募規格

●作文部門

- 1部(小学校1年生～3年生)
<400字詰め市販原稿用紙2枚以内または
マス目の大きい原稿用紙で800字以内>
- 2部(小学校4年生～6年生)
<400字詰め市販原稿用紙3枚以内>
- 3部(中学校1年生～3年生)
<400字詰め市販原稿用紙4枚以内>

●図画部門

- 1部(小学校1年生～3年生)
 - 2部(小学校4年生～6年生)
 - 3部(中学校1年生～3年生)
- <B3判、もしくは四つ切りの市販画用紙
を使用。画材は特に制限はありませんが、ポ
スター形式(標語・キャッチフレーズ・文
字の入ったもの)は応募できません>

作品の送り先

JA青森中央会またはお近くのJAに送付ください

新たなライフスタイルの中で 『花のある生活習慣』を根付かせよう

7月27日付けの報道では、新型コロナウイルスの感染者数は世界全体で1,600万人を超え、210を超える国・地域での感染が報告されています。「戦後最大の社会的・経済的危機」「百年に一度の危機」として警鐘を鳴らす専門家の報道もあります。

本県においても、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントや学校行事の中止・自粛等で、花きなど農畜産物の消費が大きく落ち込みました。我々が普段利用しているホテル・飲食店等においてもインバウンドをはじめ観光客の減少や外出自粛により休業を余儀なくされました。

現在、農畜産物の消費は回復傾向にあるものの、前年水準まで回復していません。ホテル等においては、6月からようやく営業を再開しつつあります。

県連としましては、これまでに農協会館内職員による「県産牛乳の購入運動」のほか、県産花きのPRと日頃お世話になっている取引先への感謝の気持ちを込め、“がんばろう”のメッセージを付けて「花を贈る運動」を実施し、現在、各JAにおいても取組みを行っているところであります。

今回の取組みを一過性に終わらせることなく、新たなライフスタイルの中で、日常に花のある生活習慣を根付かせ、個人がプライベートで知人、友人、家族等に花を贈る機運を盛り上げていくことが必要であります。

そのため、JA全農あおもりや県内生花店、市場などで組織する「青森県花のくにづくり推進協議会」が実施している「あおもりの花・特得ウィーク」に呼応し、農協会館内職員を対象に10月までの毎月1回、アルストロメリア、ヒマワリ、カーネーション等その時期に出回る県産花きをメインとしたフラワーアレンジメントの購入協力を呼び掛けています。

各JAの役職員の皆様におかれましても、プライベートで花を贈る取組みを盛り上げていただきますようお願いいたします。

JA青森中央会



絆 8 目次 CONTENTS

メッセージ	1	組織農政通信	16
特集	2	JAアオレンNEWS	18
フラッシュ	6	輝き	20
インフォメーション	8	自慢の逸品	20
実践農業者支援	13	JA人の動き	20
東北農政局通信あおもり	14	みりよく発信	21
経営の窓口	15		

特集1

新型コロナウイルスに 負けるな!

第3弾

～積極的な宣伝活動で
消費拡大を～

JA全農あおもり

青森県産やさい消費拡大に向けたキャンペーンを展開中!

スゴ盛 青森いきいきやさいセットを
買って県産品を当てよう!

キャンペーン期間 7/25(土)～9/30(水)

産地直送通販JAタウン「JA全農あおもりショップ」
青森いきいきやさいセット
青森県の旬のやさいを揃えて、
7種類以上で詰め合わせ
¥3,300 (税込)

送料無料で

①買って②レビューを投稿すると、
抽選で月替わりプレゼントが当たる!

第1弾	第2弾	第3弾
7.25・7.31	8.1・8.31	9.1・9.30
おももり 青森の日本酒 (720ml)	3毛豚 青天の霹靂 (2kg)	1毛豚 青森県産黒毛和牛 焼肉用カルビ (500g)

応募方法 <https://www.ja-town.com/shwa/012001/>

JA全農あおもり

JA全農あおもりは、7月25日から、「スゴ盛」青森いきいきやさいセットを買って県産品を当てよう! キャンペーンを始めた。

9月30日までの期間中、産地直送通販JAタウン「JA全農あおもりショップ」で青森いきいきやさいセットを購入し、レビューを投稿すると応募できる。先着200名様は送料無料。7月は青森の日本酒を8名様に、8月は青天の霹靂を3名様に、9月は県産黒毛和牛焼肉用カルビを1名様に、それぞれ抽選でプレゼントする。継続購入に繋げようと3か月連続の月替わり企画とし、消費が低迷している品目の需要喚起を図ろうと、日本酒・米・牛肉をプレゼント商品とした。

「スゴ盛」とは、「すごい盛」と「巣ごもり」を掛け合わせたもの。3か月連続のプレゼントで「スゴ盛」感を出し、新型コロナウイルスの影響で「巣ごもり」が続く中、県産やさいを食べて楽しんで欲しいというメッセージを込めた企画である。

牛乳ごっくんキャンペーン第2弾を開催中!

青森県産牛乳消費拡大キャンペーン
抽選で合計**350**名様に当たる!

第2弾
2020
8/1(土) ~ 8/31(日)

次回キャンペーンもお楽しみに!
第3弾 2020.10.1~31
第4弾 2020.12.20~
2021.1.31

Wチャンス賞
はずれた方の中から抽選で
50名様にオリジナルグッズ
をプレゼント!

このマークを
10枚集めて
送ってね!
牛乳パックについている
マークがすべて対象です。
色・サイズ問いません。

青森県産牛乳1,000ml入パックについている、県産牛乳の三角マークを切り取り、10枚を1口(封筒1通につき1口とし、何通でも可)として、必要事項(郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・ご希望賞品・アンケート)をご記入の上、ご応募ください。※ご記入いただいたお客様の個人情報は、賞品発送・お問合せのみに使用いたします。(法令による開示を除く。)お客様の同意なしに第三者に開示・提供することはありません。なお、キャンペーン終了後に責任をもって破棄・消去いたします。

JA全農あおもり / 青森県牛乳普及協会

〒030-0847 青森市東大野2-15
青森県牛乳普及協会「牛乳ごっくんキャンペーン係」
【お問合せ】TEL.017-729-0631 青森県牛乳普及協会 (JA全農あおもり内)

JA全農あおもりと青森県牛乳普及協会は8月1日から8月31日まで、抽選で素敵な賞品が当たる「牛乳ごっくんキャンペーン第2弾」を実施している。

青森県産牛乳1000mlパックについている三角マーク10枚を1口として応募すると、「津軽ワインセット」「ゼネラルレクラーク」などの県産品が300名様に、Wチャンス賞としてははずれた方の中から50名様にオリジナルグッズが当たる。

今年度は4回開催する予定で、第3弾以降も、消費者が楽しみになるような素敵なプレゼントを用意する。

たくさんのお応募
お待ちしております!

6月5日から30日まで実施した第1弾の抽選会を7月6日に開催しました!
合計2072通の応募の中から、当選者250人を決定しました。

たくさんのお応募
ありがとうございました!
第2弾以降も、
よろしくお祈りします。



抽選会の様子

特集2

農作業事故防止 ゼロへ!

～スピードスプレーヤの安全運転を呼びかける～

JA全農あおもり

青森県りんご共同防除連絡協議会とJA全農あおもりは、スピードスプレーヤによる事故が多発していることを受け、令和2年5月から、安全運転を呼びかけるための対策を始めた。

安全講習会を開催

青森県内の各地区りんご共防連は県りんご共防連と全農あおもりと共催で、「スピードスプレーヤ安全運転講習会」を開いた。6月から7月にかけて県内13箇所で開催、生産者ら約600名が出席した。

講習会では、県りんご共防連の東良一会長が「今年に入り、県内で2件の死亡事故が発生しており、悲惨な事故を二度と起こさないためにも、本日の講習会を参考とし、安全運転を心がけて今後の散布作業に取り組んで欲しい」と呼びかけた。

6月16日に青森市のJA青森東部りんごセンターで開催された講習会では、東会長から浪岡地区連の長谷川会長に、機体に貼り付け可能なステッカーを手渡した。ステッカーは講習会終了後、全地区の生産者に配布された。

講習会では、事故発生事例や運転の際の注意点について「過信せず、ほ場の路面の状態を十分確認してから運転すること」「5月～7月の梅雨の時期に事故が多いため、計画的に余裕をもって作業をすること」などと説明するとともに、「今後、気温の上昇とともに危険性がさらに高まるため、これまで以上の安全防止対策の徹底をお願いしたい」と説明した。



機体に貼り付け可能なステッカー



ステッカーを渡す東会長㊦と浪岡地区連長谷川会長㊧



運転時の注意点を学ぶ参加者



エンジンオイルの点検方法を学ぶ参加者

テレビ・ラジオCMの放映

県りんご共防連と全農あおもりは、農作業事故防止を呼びかける新CMを作成。5月中旬から6月末まで、県内テレビ・ラジオで計30本放映した。

CMでは「急ハンドルやスピードの出しすぎには十分注意して安全運転を心がけましょう」と注意喚起した。



ポスターやちらしの作成

県りんご共防連と全農あおもりは、農作業事故防止を呼びかけるちらし・ポスターを作成。黄色の背景に赤字を混ぜ、目立つデザインとした。

ちらしは生産者へ配布し、ポスターはSS格納庫などの目に留まる場所へ提示した。



CMで事故防止の注意喚起を促す

警報

起つてからでは遅すぎる
SS作業中の事故を無くそう!!

本年に入ってから、SS作業中の死亡事故が多発しています。農作業中の事故には、くれぐれも注意していただく。

スピード出しすぎ
急ハンドル危険!!
注意!!

事故ストップ!!

STOP

SS散布による死亡事故が県内で多発しています。

スピードの出しすぎや急ハンドルなど、SSの誤った運転が主な事故原因となっています。

SS散布中の運転操作は、焦らず丁寧に、農作業中の事故に十分に気を付けましょう。

注意点

- ✓ 運転前点検
必ずエンジンを止めてから点検
- ✓ 走行路の整備
下枝、支柱、切り株、凸凹などの障害物や**脱輪、転落の恐れ**のある箇所は要注意
- ✓ 移動運転中の注意
スピードの出しすぎ、急ハンドルは絶対に×
- ✓ 散布作業後の注意
車体の洗浄時は、電気系統に水をかけない

青森県りんご共防連 JA/JA 全農あおもり

青森県りんご共防連 JA/JA 全農あおもり

参加者に配布されたちらし

フラッシュ

JA青森



知事による高品質りんご生産に係る現地激励 (7/6)

三村申吾青森県知事は、青森市浪岡地区で「高品質リンゴ生産に係る現地激励」を行った。

三村知事は「コロナ禍で大変な時期だが、県では生産者が一生懸命作った高品質なリンゴを流通させることに今後も力を入れていく。今年も世界最高品質の青森リンゴの生産をお願いしたい」と激励。また、JA青森雪田徹代表理事組合長は「安心安全で高品質な世界一のリンゴ生産を目指そう」と決意表明し、参加者全員で「頑張ろう三唱」をした。



JAごしょつがる

津軽のメロン 出荷本格化

つがるブランド認定メロン出荷式 (7/14)

JAごしょつがる木造総合支店で、つがるブランド認定メロン出荷式が行われ、糖度15度以上のタカミなど2,600箱が、大阪や名古屋など大都市圏の青果市場へ向けて出荷された。同JAの齊藤勝徳組合長は「今年はコロナ禍によりメロンの売れ行きを心配する生産者が多いが、初セリで過去最高値となる2玉15万円となった。やや小ぶりだが、糖度は高くおいしいメロンとなったので、食べて笑顔になってほしい」とアピールした。

今年も美味しいリンゴ作ぞー!! (7/6)

三村申吾青森県知事が、弘前市五所の田澤俊明氏園にて、高品質りんご生産に係る現地激励を行い、弘前市長や県、市議会議員等関係者総勢51名が激励に訪れた。

三村知事は「世界一の青森りんごを売ることが出来るのも、生産者の皆様が頑張ってくれてるおかげです。是非一緒になって青森りんごの名声を更に上げていきましょう」と述べた。

JAつがるにしきた



品質上々 甘〜いスイカ (7/6)

JAつがるにしきたつがる白神やさい・果実部会スイカ班は、鳴沢リンゴセンターで、スイカの目ぞろえ会を開き、生産者や市場関係者ら40人が出席した。本年産の生育は4月下旬と5月中旬の低温、曇雨天により若干遅れたが、5月下旬以降は好天が続いたことで回復。同班は15人で34.6haを栽培。出荷数量2,250トン、販売金額2億7,000万円を目指す。



JAつがる弘前

生産資材予約購入者へ豪華景品 キャンペーン抽選会 (7/8)

JAつがる弘前は、2020年用生産資材予約キャンペーン抽選会を本店で行った。今年が6回目。

抽選は工藤文明組合長と小山悟常務、経済委員らが行い、応募総数6,435枚の中から、特別賞(刈払機・動力噴霧器セット)12人、A賞(ゴアテックススーツ)50人、B賞(購買券1万円分)100人、の合計162人を選んだ。



JA相馬村



JA津軽みらい

願いを込めて飾りつけ（7/3）

JA津軽みらい女性部石川支部は、同JA石川基幹支店で七夕の飾りつけを行い、支店入り口前に飾った。

短冊には今年の農作物の豊作、健康、新型コロナウイルスの終息などの願い事が書かれた。

部員は「今年も綺麗に飾りつけできた。願い事が無事に叶ってくれるとうれしい」と話した。



JAゆうき青森

肥育農家応援・

あおもり和牛消費拡大キャンペーン実施（7/21）

JAゆうき青森は、管内で肉牛を生産する農家を応援するため、同JAの生産者の滝沢市男さん、沢田義彰さんが育てた肉牛を2頭まるごと買い取り、組合員へ販売した。この日

はゆうき青森本店・天間林支店・六ヶ所支店・らくのう営農センターで、170人430セットを販売し、完売。購入者は「販売が待ち遠しかった。地域の方が大事に育てた地元牛肉を買うことで少しでも消費活動に貢献できたら良い」と話した。



JA八戸

プラム最盛期迎える（7/22）

JA八戸の三戸営農センターでは、プラムの集出荷が最盛期を迎えた。14日から23日にかけて、JA職員が毎日、業務終了後の17時から交代で各部署から作業応援に加わり、荷受けやバック詰めなど農家の所得向上を後押ししている。

担当者は「今年は、天候不良の影響から着果量がまばらに見られる地域もあるが、年々、部会員も増えてきているので、目標金額を達成できるよう、支援していきたい」と話す。



JA十和田おいらせ

コロナ終息と東京五輪開催願い

住民の田んぼアート見ごろ（7/20）

JA十和田おいらせ藤坂支店管内の水田地帯にある田んぼアートが、見ごろを迎えた。コロナ終息と来年の東京五輪開催への願いを込め、5つの輪に子年を重ね、日本の国旗と「2020コロナニマケルナ！」のメッセージが描かれてある。

同支店管内は県産米「まっしぐら」を生産する米どころ。デザインを担当する水土里ネット十和田の福田司総務主任は「五輪マークの重なる部分に苦労した。日本中のみんながコロナの早い終息を願っている」と思いを込めた。



JAおいらせ

夏ニンジン収穫最盛期

協議会が収穫請負い生産者の負担軽減へ（7/13）

JAおいらせでは夏ニンジンの収穫が最盛期となっている。夏ニンジンの収穫はニンニクの収穫や他品目の管理作業と重なることから、収穫作業をニンジンオペレーター協議会が引き受け、生産者の作業負担の軽減と農家所得の向上に取り組んでいる。

三沢市三川目地区の1.3haの畑に、ハーベスタ8台が集結し、朝早くから収穫を始めていた。7月中はJA職員も交代で選果作業に加わり、7月末まで生産者、同協議会とJAが一丸となり、生産者の所得向上を後押しする。

農業所得向上と新型コロナ早期終息を祈願

県農協農政対策委員会は7日、青森市の大星神社で2020年度の「農業所得向上・新型コロナ早期終息祈願」を行った。委員長を務める阿保直延JA青森中央会会長と常任委員ら18人が神殿に玉串をささげ、県内農産物の豊穰、農畜産物価格の上昇、農作業の安全と、新型コロナウイルスの早期終息を祈念した。



▲玉串をささげる阿保委員長

JA青森中央会自己改革推進会議を開催

JA青森中央会は10日、青森市でJA自己改革推進会議を開き、JAの常勤理事・幹部職員30人が出席した。JA全中JA改革推進課の山田剛之課長がJA自己改革の現状と今後の情勢、JAのSDGsの取組みを報告した。農林水産省はJAグループの自己改革に進展があったと評価する一方で、農業者の所得向上に向けた取組みを継続・強化しつつ、農協経営の持続性をいかに確保していくかが課題であると示した。

「農協の自己改革に関するアンケート調査」では、県内の認定農業者等の評価が低くJAの回答と大きなギャップが存在し、9月末までの常勤役員の訪問・対話をはじめとした取組みを強化する必要があると指摘した。准組合員の意味反映・運営参画については要領・方策を策定することなど取組まなければならない課題を提起した。

SDGsの取組みは役職員間で共通認識を醸成し、事業・活動との関係性を整理し、事業計画への反映や情報発信へと段階的な取組みを説明した。中央会の小山主悦常務は、県内独自の課題も多くあるため、引き続き自己改革の推進に向けて各JAに協力を呼び掛けた。



▲JA自己改革の現状を説明する山田課長（左）

中央会職員が農業研修を実施

JA青森中央会は、JAと組合員、地域住民との関わりを通じてJA・中央会の使命を再認識し、JAグループ職員としての自覚高揚を図るため、20年度から県内4JAで農業研修を実施する。

今年度は津軽地区2JA、県南地区2JAが研修を受け入れる。7月と9月～11月の間に、中央会職員33人が3日間の実習を2回実施。農家でのニンニク・ゴボウ・リンゴの収穫など、農繁期の組合員圃場で農作業を実施することで、農業労働力不足の一助につなげる。JAおいらせで行った1回目の研修では、ニンニクの掘り取りや箱詰め、ニンジンのフレコン回収、選果場でのニンジン選別などを行った。

研修を終えた農業支援課の武田健吾さんは「農業を経験し、農家の方々と交流するのは貴重な経験であり、多くのことを学ぶ機会となった。この経験を今後の業務での考え方などに生かしたい」と話した。



▲ニンジンの選別を行う中央会職員(右)(1日、三沢市で)

行事(8/10~9/10)

8月

- 11日 臨時理事会(県農協会館)
- 19日 JA経営基盤強化実践研修会(教育研修所)
- 20~21日 初級職員研修会(教育研修所)
- 24日 農業簿記・農業税務研修会(教育研修所)
- 26日 定例理事会(県農協会館)
- 26日 県選出国議員要請集会(ホテル青森)
- 27日 農業労働力求人マッチングサイト端末操作研修会(教育研修所)
- 28日 生活指導員連絡協議会(県農協会館)

9月

- 1~4日 認証上級準備研修会(教育研修所)
- 4日 令和2年度エルダーミセス部会研修会(県農協会館)
- 8~9日 中堅職員研修会(教育研修所)

2020年度 第1回 営業戦略会議を開催

JAバンク青森では、7月13日に県農協会館7階大会議室で貸出強化に向けた「営業戦略会議」を開催し、各JAから18名の融資担当者が出席した。

本会議は、JA融資担当者の融資推進能力の強化を目的に2016年以降毎年3回開催しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、例年に比べておよそ1か月遅れの開催となった。

今回は、日本政策金融公庫ならびに青森県農業信用基金協会にも参加いただき、新型コロナウイルス感染症対策資金の一つである「農林漁業セーフティーネット資金」の商品概要や諸手続きのほか、政府による「新型コロナウイルス感染症にかかる緊急経済対策第3弾」の金融支援策として実施される保証料免除手続等について理解を深めた。

また、住宅ローンをはじめとした各種ローン施策について、今後の活動の方向性やキャンペーン実施内容等に関する具体的な取組方法を協議した。

JAバンク青森では、今後増加が懸念される新型コロナウイルス感染症による売上減少等に伴う資金相談に適時適切に対応するとともに、引き続き県域戦略として掲げた「貸出強化プラン」の実践を通して、農家組合員・利用者のニーズに合わせた貸出対応に取り組んでいく。



▲災害資金の支援策や取組方法等を確認する出席者

新型コロナウイルスでお困りの農業者の皆さん JAバンク青森にご相談を！

JAバンク青森では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた農業者を対象に、利子助成、保証料免除などの支援策を講じた災害資金を取り扱っている。主な資金の特徴は次のとおり。

ご相談・お問い合わせは、県内各JAまたは農林中央金庫青森支店まで。

[2020年8月3日現在]

◎ 経営改善のために必要な資金

◆アグリマイティー資金（災害緊急資金）

期 間 5年以内
金 額 500万円以内
金 利 JA所定の金利（最大1.0%利子助成）
保証料 負担なし（全額助成）

◆農業近代化資金（新型コロナウイルス感染症）

期 間 7～20年以内
金 額 個人 1,800万円以内
法人 2億円以内
金 利 当初5年間0%、6年目以降0.3%～
保証料 当初5年間免除、6年目以降0.138%～

◆農林漁業セーフティーネット資金

期 間 10年以内
金 額 1,200万円以内
金 利 当初5年間0%、6年目以降0.16%～
保証料 不要

◎ 既往債務の返済に必要な資金

◆JA農業経営維持継続資金（危機対応）

期 間 15年以内（据置期間3年以内）
金 額 借換する既往債務残高の範囲内
※農業経営改善に必要な資金の合算可
金 利 JA所定の金利
保証料 当初5年間免除、6年目以降0.5%

行事（8/10～9/10）

農林中央金庫

8月

18～19日 信用事業中堅職員研修〈受信力・発信力〉（県農協会館）
25日 渉外年金推進研修（県農協会館）
26日 窓口年金推進研修（県農協会館）

9月

2～3日 住宅関連会社営業研修（県農協会館）
8日 第二種証券外務員研修（県農協会館）
9日 内部管理責任者資格取得研修（県農協会館）
10日 青森県JA信用担当部長会議（県農協会館）

農協電算センター

8月

4～6日 窓口端末機操作研修（情報系）・3回開催（県農協会館）

第1回GAP現地研修会

JA全農あおもりは7月8、9日の2日間、JA津軽みらい管内ほ場で、今年度第1回目となるGAP現地研修会を開いた。

各JAのGH農場評価員らが参加し、認証GAP取得に係わる内部審査を視察。チェックリストに基づいた審査方法について、現地で学んだ。

研修の中では、実際の内部審査を見学しながら、参加者自らも模擬審査を行い、必要書類や農薬庫の確認など、より実践的な形式で審査方法を学んだ。

全農あおもり担当者は「各JAのGH農場評価員が中心となり、生産現場における食品安全や環境保全、労働安全等のリスク排除に向けてGHの実践を推進するとともに、今後の情勢変化等でGAP認証取得が必要となった際、早急に対応できる体制の構築を目指したい」と話す。

今回の研修会は「いつでもGAPを取得可能な体制づくり」の構築に向けた取り組みの一環。今後も、農場評価実践研修や外部審査の視察等を行い、将来的にGAP認証が必要になった場合に備えることとしている。



▲模擬審査を実践する参加者

イオン青森県フェア

青森県は今年度第1回目となる青森県産品フェアを開いた。イオン東北(株)とのタイアップ企画で、7月9～13日までの5日間、県内のイオン・マックスバリューストア28店舗の食品売り場で「めじゃー市」「うまいもの市」を展開。

11日、青森市のイオン青森店で開かれたPRセミナーでは、三村申吾県知事やイオン東北(株)佐々木智佳子副社長、JA全農あおもりの笹森俊充副本部長らが、消費者に向けて県産品の愛用を呼びかけた。

全農あおもりの笹森副本部長は「ながいもをすって、だしをかけて、青天の霹靂ごはんにかけて、夏のスタミナをつける『ながいも丼』がおすすめ。食後はメロンを食べて塩分を排出する。旬の県産農産物を1食で網羅でき、健康的なお手軽メニュー」と紹介した。

フェアは、安全・安心な県産農林水産物とその加工品に関する情報を発信し、地産地消の推進と県産品の販売拡大を図る目的としている。PRセミナーのほかに、イオングループと産地との情

報交換会も行われた。



▲県産品の愛用を呼びかける関係者ら

第2回トマト・ミニトマト現地検討会

青森県とJA全農あおもりは7月13日、青森市の(株)サトシ農園で、今年度第2回目となるトマト・ミニトマト現地検討会を開き、県内JA担当者らが出席。人手不足に対応した自動灌水システムについて学ぶとともに、生育状況や今後の課題等について情報共有した。

サトシ農園では本年から自動灌水・施肥システム「楽かんさん Demeter」を導入し、栽培を始めている。本システムは、日射量に応じた灌水量を自動制御することが特徴である。

農園の我満智代表は「スマホやタブレットで手軽に設定できるので便利。データを蓄積し、県内のトマト農家に提供できたら嬉しい」と意気込む。今後の課題として「栽培履歴をシステム上に反映するなど改良することによって、作業効率を上げたい」と話す。

全農あおもりでは、人手不足に対応したスマート農業の普及に向けた取り組みを実施している。今回のシステムもこの取り組みの一環で、実証に向けた試験を継続していく。

県担当者からは県全体の生育状況について「収穫開始が低温の影響により平年より遅い地域もあるが、概ね順調」と報告があった。今後の対策として「降雨が続いた影響で、灰色カビ病が散見される。適正な農薬使用で対策をとって欲しい」と呼びかけた。



▲自動システムについて学ぶ参加者

ハウス食品とのコラボカレーをPR

ハウス食品(株)の藤原隆男東北支店長とJA全農あおもりの藤間則和副本部長は7月16日、三村申

吾青森県知事を表敬訪問し、オリジナルカレー「青森県産ながいもと夏野菜のキーマカレー」をPRした。

試食した三村知事は「キーマカレーにしたことにより野菜に挽肉の旨味が染みておいしい。また、トウモロコシや枝豆等が入っていることにより非常に色鮮やか」と絶賛した。

ながいも、トマト、たまねぎ等の県産やさいに加え、県産米「まっしぐら」も使用した。火の通りがよい挽肉を使い、フライパン一つで調理できることがポイント。

今回の訪問は、県産やさいを使用した「今こそカレーだ！青森の食材を『カレー』で味わおう」キャンペーンの一環。県が進める地産地消および県産食材の消費拡大に呼応したものだ。

8月17日までオリジナルのテレビCMを県内で放映するほか、8月末まで、県内スーパー等でPRを実施する。

令和元年6月から活動を始めた青森いきいきやさいレディも同行し、県産やさいをPRした。



▲三村知事を表敬訪問（右からいきいきやさいレディ、藤間副本部長、三村知事、藤原支店長）

水稲安定生産対策現地検討会

J A全農あおもりは7月17日、黒石市の青森県産業技術センター農林総合研究所およびJ A津軽みらい管内ほ場で、水稲安定生産対策現地検討会を開いた。検討会にはJ A担当者および県・普及振興室担当者、農林総合研究所担当者が出席。農林総合研究所担当者からは水位センサーによる土壌環境の変化測定や初期生育の安定化に向けた稲わらすき込み技術について、全農あおもり担当者からはリモートセンシングを活用した葉色診断技術についてそれぞれ説明があり、現地ほ場を確認しながら、各試験について検討を行った。

近年は、初期生育期間中の高温により土壌の還元化が促進され、生育を抑制することが指摘されており、その対応策として、土壌環境の測定や適切な稲わらすき込み技術の確立を目指している。また、昨年度から実施しているドローンリモート



▲水稲の確認をする出席者

センシング技術を活用した葉色診断では、より正確かつ省力的な追肥判断・刈取適期の把握に向けて試験を実施している。

参加者からは「追肥基準となる要素は、葉色だけではなく生育量も含まれるため、今後はより精度の高い葉色診断とともに、生育量測定なども視野に入れて試験・検討する必要があるのではないか」などといった意見が寄せられた。

第47回青森県花の共進会審査会

J A全農あおもりと青森県は7月17日、青森市の県観光物産館アスパムで「第47回青森県花の共進会審査会」を開いた。

県内の花き生産者から輪ギク、トルコギキョウ、アルストロメリアなど100点の出品があり、最優秀賞（農林水産大臣賞）に八戸市の石上重徳さんが出品した輪ギク（精の一世）が選ばれた。

7月18日から19日の2日間は新型コロナウイルス感染予防のため、県内の花き生産者・関係者のみに入場を制限し、展示会を行った。

最優秀賞以外の上位入賞者は次の通り。

▽優秀賞＝山谷秀一（トルコギキョウ・田舎館村）小山内しげ子（ヒマワリ・弘前市）澤田常雄（カラー・J Aつがるにしきた）▽金賞＝奈良岡一美（アルストロメリア・J A津軽みらい）佐藤健一（スターチス・J Aつがるにしきた）小嶋繁樹（ディスプレイバットマム・J A八戸）稲場昇一（トルコギキョウ・つがる市）中谷栄子（デルフィニウム・J Aつがるにしきた）澤田健吾（かすみ草・J Aつがるにしきた）小見山博美知（トルコギキョウ・J Aつがるにしきた）



▲県産花きを審査

行事（8/10～9/10）

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 8月 | |
| 21日 | 第1回石油事業推進会議（県農協会館） |
| 25～26日 | J A—SS中堅スタッフ講習会（アップルパレス青森） |
| 26日 | 運営委員会（県農協会館） |
| 31日 | J A米穀担当部課長および担当者合同会議（県農協会館） |
| 31日 | 農産物検査に係る穀粒判別器説明会（県農協会館） |
| 9月 | |
| 3～4日 | 令和2年産りんご販売要請会議（大阪・東京） |
| 7～8日 | 令和2年産りんご販売要請会議（九州・名古屋） |

共済事業担当常勤理事会議

JA共済連青森は7月2日、青森市浅虫の海扇閣において、共済事業担当常勤理事会議を開催した。

令和2年度第1四半期の取組み結果から第2四半期に取組むべき事項を明確に示し、目標達成に向けた取組みについて協議することを目的に開催し、県内JAの共済事業担当常勤理事10名が出席した。

全共済連青森県本部福士本部長の開会の挨拶に続き、全共済高橋常務より情勢報告が行われた。

会議では、①令和元年度決算概要について②令和2年度第1四半期の取組み結果について③令和2年度推進総合目標達成に向けた今後の取組みについて④共栄火災の取組みについて等の説明と協議が行われた。

会議では、新しい仕組みに関する質問等、出席者からの質疑応答を交えながら積極的な協議・検討が行われた。

なお、7月8日、同協議内容にて共済担当部課長会議が開催された。



▲挨拶をする全共済連青森県本部福士本部長

自動車共済お見積もりキャンペーン【第1期分】 JA別当選本数決定

JA共済連青森は、県本部独自で実施している自動車共済お見積もりキャンペーン（第1期分：対象期間 令和2年4月1日～令和2年6月30日）の、A賞からD賞までの当選本数をJA別に決定した。（詳細については各JAに通知している。）

本キャンペーンは応募された方から抽選で豪華商品をプレゼントするもので、3Q訪問活動を通して、JA共済未加入車両への見積もり提案を展開することで、今までJA共済とつながりがない方に対する情報収集や提案を促進、新規契約の拡大につなげることを目的としている。

○ 各賞の賞品

A賞
任天堂スイッチ



B賞
ドライブレコーダー



C賞
コードレスクリーナー



D賞
車載緊急用キット



★見積もり先着2,000名様にレジャーシートプレゼント



キャンペーンは、令和3年3月31日まで実施いたしますので、第2期から第4期の多数の応募をお待ちしております。

○ 当選者数

賞名	賞品	【第1期】 当選者数	年間 当選数
A賞	任天堂スイッチ	2名	8名
B賞	ドライブレコーダー	10名	40名
C賞	コードレスクリーナー	10名	40名
D賞	車載緊急用キット	20名	80名
見積り者 プレゼント	レジャーシート	888名	先着 2,000名

行事（8/10～9/10）

8月

26日 運営委員会（県農協会館）
27～28日 JA自然災害損害調査員有資格者研修会（県農協会館）

実践 農業者支援

経営継続補助金の概要と今後の進め方

国の令和2年度第2次補正予算において措置された「経営継続補助金」の概要と今後の進め方について紹介する。

【目的】

新型コロナウイルス感染症の影響を克服し、経営継続に向けた農業者の取組みを支援するもの。

【対象者】

農業を営む個人もしくは法人（常時使用する従業員数20人以下の場合に限る）

【事業実施期間】

令和2年5月14日から令和2年12月31日まで

【対象となる取組みと経費および上限額等】

（1）経営継続に関する取組み

対象となる経費は、①機械装置等購入費②広報費③展示会等出展費④旅費⑤開発・取得費⑥雑役務費⑦借料⑧専門家謝金・旅費⑨設備処分費⑩外注費・委託費。

補助率は3/4、補助上限額は100万円となる。

（2）感染拡大防止の取組み

①消毒費用②マスク費用③清掃費用④飛沫対策費用⑤換気費用⑥その他衛生管理費用⑦PR費用

補助率は定額、補助上限額は50万円となる。

※「（2）感染拡大防止の取組み」のみの単独申請はできない。また、その上限額も「（1）経営継続に関する取組み」の額を超えることができない。

【申請別の上限額】

単独（個人・法人）申請の場合は、合計150万円まで。

共同（グループ）申請の場合は、合計1500万円まで。

【補助要件】

「（1）経営継続に関する取組み」では、補助対象経費の1/6以上を次のいずれかに充てる必要がある。

（1）接触機会を減らす生産・販売への転換に要する経費

例① 作業員間の接触を減らすための省力化機械等（例 農薬散布用ドローン、野菜苗移植機、果実等自動選別機 等）の導入

例② 作業員間の距離を広げるための作業場や倉庫等におけるスペース統合やレイアウト変更

（2）感染時の業務継続体制構築に要する経費

例① 人員削減等に備えた「事業継続計画」の策定

例② Web 会議システムの導入

【留意事項】

事業の実施にあたり、次の事項について、留意する必要がある。

（1）全般

①申請経費の目的が、この事業を実施するために必要であると明確に特定できるものであること。

②事業実施期間中（令和2年5月14日から令和2年12月31日）に、発注、納品および支払を完了したものであること。

③証拠資料等により支払金額が確認できるものであること。

（2）機械装置等購入費（経営継続に関する取組）

①単なる取替更新でないこと

②汎用性のあるパソコン等の購入でないこと

（3）感染拡大防止の取組みに関する費用

①消耗品に関しては、事業実施期間中に購入および使用したものであること。

【JAの役割】

JAは、「支援機関」として、組合員に対し次の伴走支援が必要となる。

①申請書類の作成支援

②支援機関確認書の作成

③採択計画に基づく事業の実施支援

④交付決定通知書の送付

⑤事業実績報告書の作成支援および領収書等の確認

【1次公募に関するスケジュール】

①補助金交付決定通知 8月～9月上旬

②事業実施 交付決定通知後、採択計画に基づき実施

③事業期間満了 12月31日

④実績報告書の提出 事業を完了した後30日を経過する日または令和3年1月末まで

⑤補助金受領 実績報告書の確認後、組合員へ直接振込

【2次公募に関するスケジュール】

①公募受付 9月中旬～10月中旬

②「事業実施」から「補助金の受領」までは、1次公募と同様のスケジュールとなる。

【JA内での部門間連携】

1次公募の申請、また、補助金交付決定通知書の到着により、組合員からは、機械等の発注、融資、共済加入等に関する各相談の増加が想定される。そのためJAでは、各部門間での情報共有や連携が非常に重要となる。今回の補助事業を通じて、各部門が共に組合員に対しサポートすることにより、さらなる関係強化につなげることはもとより、JAへの信頼度や満足度を一層高めていく必要がある。

（中央会 農業対策部）

令和2年産米の飼料用米等取組計画書等の追加・変更受付について

新型コロナウイルス感染症による外出自粛要請等により、産地では令和2年産米の需要に応じた生産に向けた検討に時間を要する等の影響がありました。また、令和2年産米の4月段階の作付意向調査では、主食用米の作付意向が全体として前年並みと見込まれます。

こうした状況を踏まえて、農林水産省では令和2年産米の収穫が本格化する直前まで主食用米の需給動向等を踏まえた検討が産地においてできるよう、**提出期限6月30日までに提出済みである飼料用米等の取組計画書等について8月31日まで追加・変更を受け付けることとしました。(提出期限の延長ではありません。)**

主食用米の需要が年々減少していることを踏まえれば、まだまだ需要のある飼料用米への転換を検討する必要があるな。



●令和2年産米における需要に応じた生産に向けた対応等について（農林水産省HP）
https://www.maff.go.jp/j/press/seisaku_tokatu/s_taisaku/200612.html



「強い農林水産業」、「美しく活力のある農山漁村」の実現のため、地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信します。応募は9月4日までとなります。

●選定の対象となる取組

地域において、新たな需要の発掘・創造や埋もれていた地域資源の活用により、農林水産業・地域の活力創造につながる下記のいずれかに該当する取組です。

- ・美しい伝統ある農山漁村の次世代への継承
- ・幅広い分野・地域との連携による農林水産業や農山漁村の再生
- ・国内外の新たな需要に即した農林水産業の実現
- 過去に選定された青森県の地区
 - ・第2回 農業生産法人 株式会社グリーンファーム農家蔵
 - ・第3回 在来津軽「清水森ナンバ」ブランド確立研究会



●ディスカバー農山漁村(むら)の宝 特設HP
<https://www.discovermuranotakara.com/>

●お問い合わせ

東北農政局ディスカバー農山漁村の宝問合せ先
Tel: 022-263-1111 (代表)
吉原(内線4445)、佐藤(正)(内線4118)、江藤(内線4185)

令和元年度食料・農業・農村白書(6月16日公表)

「食料・農業・農村白書」は、食料・農業・農村基本法に基づき、政府が毎年、国会に報告しているものです。この度、令和元年度食料・農業・農村白書が公表されましたのでお知らせいたします。

今回の白書では、冒頭に特集を2テーマ設け、「新たな食料・農業・農村基本計画」、「輝きを増す女性農業者」について記述しています。新たな食料・農業・農村基本計画では、食料・農業・農村基本法に基づき、10年程度先までの農政の基本指針として2020年3月に策定された新たな基本計画についてご紹介しています。今後の農政の中長期ビジョンとなるものです。

また「輝きを増す女性農業者」では、これまでの女性農業者の状況を振り返り、今後の女性の更なる活躍を推進していくための課題と方策についてご紹介しています。詳しくは農林水産省ホームページをご覧ください。http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r1/index.html



経営の窓口

クロスチェックによるJAの内部統制確立強化に向けて

1. はじめに

JAグループでは、経営の最重要課題の一つとしてJA内部統制の確立に取り組んでいる。内部統制の確立は、会計監査人監査への適正な対応や事務手続きの遵守、不祥事の未然防止等JAの業務を適切に行うことによって、JAの経営目標を達成するために重要な取組みである。

そのため、JA全中では令和2年度「JA内部統制確立に向けた重点化対策」を決定し、全国のJAがその実践に取り組むこととしている。

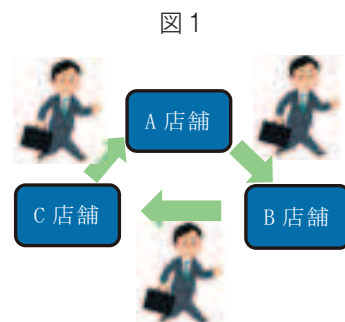
一方で、他県域で不祥事が発生しており、その内容が新聞、テレビ等で広く報道されることによって風評被害が発生し、組合員や利用者からJAの信用を失うといった事態が生じている。

今年度末には農協法改正5年後検討条項（＝**准組合員の利用規制の検討**）の期限を控える。不祥事の発生はJAが自己改革に全力で取り組んでいる中、水を差す行為であり、農協改革の検討に悪い影響があってはならない。したがって、JAは経営目標のため内部統制の強化（不祥事の未然防止等）に一層取り組んでいかなければならない。本号では、「JA内部統制確立に向けた重点化対策」のうち全事業（全部門）に共通する「**クロスチェックによる現金管理のけん制強化**」について掲載する。

2. クロスチェックとは

クロスチェックを導入する目的は、**支店・経済拠点における「独自ルール」の是正と管理者（支店長等）の事務手続きの理解を深化・向上**することである。

クロスチェックのイメージは、自店舗（支店等）の業務の仕方を他店舗の**事務精通者**にチェックしてもらうことである。（図1のとおりA店舗の検査員（＝事務精通者 例えば課長）がB店舗を検査、B店舗の検査員（例えば支店長）がC店舗を検査、C店舗の検査員（例えば係長）がA店舗を検査）



3. クロスチェック導入の背景

クロスチェックを導入する背景は、全国的に不祥事が発生していることと独自ルールが是正されていない状況にあるためである。不祥事が発生する原因は①事務手続きの遵守が不徹底なこと、②管理者の業務・管理者知識が不足していることにある。また、支店・経済拠点でJA共通の事務手続き等ルールがあるにもかかわらず、検証者の過去の経験や独自の認識で「**問題なし**」と本店に報告している場合や第三者の検証や検証があってもその改善が徹底されていないことが背景にある。

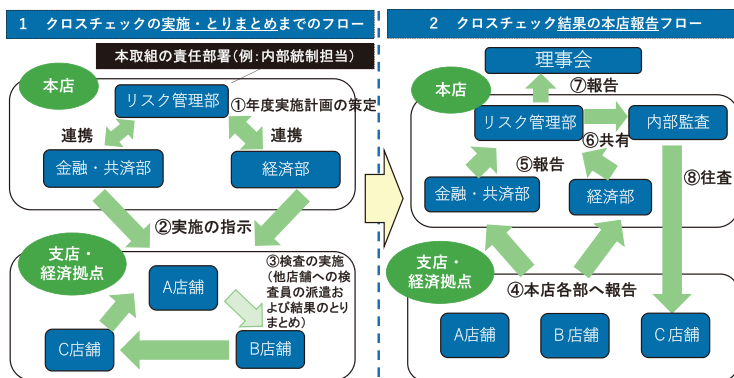
4. クロスチェックの実施について

クロスチェックの実施イメージは図2のとおりである。

- ① リスク管理部（内部統制担当部署）が本店各部と連携し年度実施計画を策定。
- ② 信用・共済事業実施店舗については金融部、経済拠点については経済部から実施を指示。
- ③ 各店舗において、クロスチェックを実施し、検査員は、クロスチェック結果を報告様式にとりまとめる。
- ④ 各店舗からチェック結果を本店各部へ報告。
- ⑤ 本店各部からリスク管理部へ報告。
- ⑥ リスク管理部は、内部監査へチェック結果を共有。
- ⑦ リスク管理部は、必要に応じて理事会に報告。
- ⑧ 内部監査部門は、チェック結果を確認し、リスクに応じて監査計画に反映させる。

この取組みを通じて、「独自ルール」の是正と管理者の事務手続きの深化・向上が図られる。

図2 全体の取組フロー（イメージ）



5. 今後の取組み、中央会の支援について

クロスチェックは、今年度から導入する初めての重点化対策である。そのため、本会では、総務管理担当常勤理事会議、参事連絡協議会定例会、内部管理高度化研修会、内部監査担当部長会議等においてクロスチェックの内容を説明している。

また、JAへの個別説明や実施計画の策定支援、検査員と本会職員の同行等を通じて、JAのクロスチェックの取組みを支援することとしている。

（中央会 経営対策部）

組織農政通信

全職員で取り組む「JAくらしの活動」 ～JA組織基盤強化とアクティブ・メンバーシップの確立のために～

「JAくらしの活動」とは？

「JAくらしの活動」は、組合員との結びつきの希薄化、総合事業における各事業の縦割り化、承継組合員の減少等を背景に、組合員や地域住民の暮らしを支援し、安心して暮らせる地域づくりを目指して、平成21年度の第25回JA全国大会で決議された、JAにとっては新しい活動です。

Check !

「生活指導事業・生活活動」との関係

「生活指導事業・生活活動」は、生活担当部署において女性組織を対象に趣味・教養等の講座やイベントの開催など、生活を豊かにするための活動を行います。JAくらしの活動はJAの全ての部署で全職員が連携し、正・准組合員、地域住民を対象に行う、JA組織基盤強化を大きな目的とした活動です。

JAを巡る三つの危機

「JAくらしの活動」の展開が決議された背景には、JAを巡る三つの危機があります。

1. 農業・農村の危機

JA全中「平成31年度全JA調査」によると、正組合員のうち第一世代（70歳以上）が全体の約半分を占める状況となっており、深刻な担い手不足、担い手の高齢化が課題となっています。

地域農業・JAの中核的存在でJAをよく理解し、「わがJA」と認識していた第一世代がリタイアし、第二世代（45歳以上69歳以下）への継承がうまくいかないと、正組合員の減少に加え、JAの出資金の減少にもつながるため、「わがJA意識」を強化していく手段として「JAくらしの活動」を展開する必要があります。

2. 組織・事業・経営の危機

JAの事業取扱高や事業総利益は全国的に各事業とも年々減少傾向にあり、JA経営基盤の強化・確立が急務となっています。組合員第二世代の求心力と関係性を強化し事業利用を促進するとともに、准組合員・地域住民という「新たな事業利用者」「新たなJAファン」づくりを進めるため、JAへの親しみや理解を得ることのできる「JAくらしの活動」を展開することが効果的です。

3. 協同組合の危機

JAの合併がすすみ、事業・経営の効率化等がすすむにつれて、組合員とJAとの距離は物理的にも心理的にも広がり、「わがJA意識」が低下する懸念があります。特に准組合員については、事業利用のみの関係となっていて、「協同組合」の理念共有や「メンバーである」という認識のない人も増えています。

このため、JAくらしの活動への参加を通して、JAとの関係性を強化し、JA・協同組合の理解者を増やす必要があります。

これらの三つの危機に対応するため、第二世代の正組合員と、准組合員を中心にしたアクティブ・メンバーシップの確立が必要です。

Check !

「アクティブ・メンバーシップ」とは

組合員が積極的に組合の事業や活動に参加すること。JAにおいては、組合員が地域農業と協同組合の理念を理解し、「わがJA意識」を持ち、積極的な事業利用と協同活動に参加すること。

主な活動の拠点は「支店（支所）」「直売所」 「介護施設」

合併に伴いJA管内は広域化しているため、活

動の拠点となるのは、本店よりも支店です。地域性やニーズ、農作業の繁閑期が異なるため、支店の独自性を生かした活動の企画・実施が求められます。そのため「支店運営委員会」等による組合員参加型の協議も場を設けて企画・立案することが大切です。



【JA八戸 支店運営委員会】

構成メンバーは地区選出役員、各生産組織の会員、青壮年部・女性部の会員、准組合員など。年2回開催（6月と12月※状況によって変更あり）し、組合業務に対する助言のほか、支店事業や行事・地域ふれあい活動などについて協議する。

直売所は地場農産物の販売など准組合員や地域住民に認知されており活動スペースも確保しやすく、介護施設は介護保険事業の展開を妨げない形での実施が可能であれば「ミニデイサービス」（介護保険制度対象外）などの活動の拠点となります。

本店（本所）はJA全体の司令塔

活動は各支店での企画・実施を基本とし、本店は、支店等の現場の取り組みを支える等、マネジメントに徹します。なお、活動によっては本店が中心になって企画・立案を行う場合もあるため、本店・各支店が連携して行うことで展開が可能となり、組織的に地域コミュニティの活性化を目指すことが可能となります。

活動内容

JAくらしの活動の分野は多様で幅広いため、組合員・地域住民の思いや願い、ニーズを把握したうえで実施することが重要です。

対象者	活動内容（例）
子ども	・小学校等への出前授業 ・子ども農業体験学習 ・親子料理教室 ・スポーツ大会 ・子ども食堂 など
女性	・女性大学 ・料理教室 ・趣味の教室やサークル ・仲間づくり旅行 ・子育て支援 など
高齢者	・JA健康寿命100歳プロジェクト ・ミニデイサービス（介護保険制度対象外） ・生きがい教室 ・見守り活動 など
男性	・男の料理教室 ・農業塾 ・市民農園 ・体験型農園 など
准組合員・地域住民	・支店だよりの発行 ・JA健康寿命100歳プロジェクト ・祭り等のイベント ・清掃活動 ・交通安全活動 ・結婚相談 など



【JA津軽みらい JAカルチャー講座】

組合員をはじめ地域住民に趣味を通じて生活に潤いと生きがいを持ってもらうことを目的とした講座。2019年度は、12月から3月までの4か月間で、民謡・煎茶道・書道・フラダンスなど全17講座を開催し、延べ248人が受講した。

最後に

「JAくらしの活動」は、「JAは地域に頼られる存在になっているか」「支店は地域の『拠りどころ』になっているか」を常に確認・検証しながら、支店職員一丸となって取り組むことが大切です。

中央会では、各JAに合った活動をJAと一緒に協議・提案してまいります。

（中央会 農業対策部）

リンゴの搾り粕でバイオプラスチック / 日本初の取組み

1 SDGs目標達成に向けた新会社「グレンカル・シナリー（株）」設立

青森県農村工業農業協同組合連合会（青森県弘前市、以下「JAアオレン」）は7月15日、リンゴの搾り粕等植物性残渣を活用した、バイオプラスチック用原材料の製造、販売を展開する新会社「グレンカル・シナリー株式会社」（以下「シナリー社」）を共同で設立した。JAアオレンで年間約1.8万トンのリンゴを加工（ジュース）した際に発生する5千トン以上の搾り粕を有効活用する。

JAアオレンでは2013年からグレンカル・テクノロジー（株）が開発した独自の乾燥機「レドックスマスター乾燥機」を活用し、リンゴの搾り粕の低コスト乾燥について共同研究・開発を行ってきた。約6年の歳月を経て、リンゴの搾り粕や様々な植物性残渣の低温・低コスト乾燥技術を確立させることに成功し、その技術を駆使した大型乾燥機「レドックスマスター1号機」を19年5月にJAアオレン内に導入し本格稼働させた。



「レドックスマスター1号機」は、プラズマ技術による複数種のイオンの働きにより、水分子クラスターの水素結合を分解。ミスト化した水分子クラスターを風で吹き飛ばすことで乾燥。高熱を利用しない革新的な乾燥技術を確立した。1日の処理量は3～5トンで、含水率約80～90%のものを20%以下まで乾燥処理する。

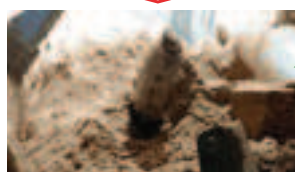
シナリー社はJAアオレン内に本社を置き、リンゴの搾り粕をはじめ、様々な業種で発生する植物性残渣を乾燥処理し、これをバイオプラスチック用原材料として製造・販売する新会社で、出資者はグレンカル・テクノロジー（株）、JAアオレン、農林中央金庫など6社、出資金は2億1百万円。同社で導入した「レドックスマスター1号機」は、バイオプラスチックの課題とされるコスト面と品質面を克服したことで、化石燃料由来の

【りんご搾り粕】



- ・りんごを搾ると約30%が搾り粕として発生
- ・含水率約80～90%

乾燥



- ・乾燥処理量 3～5 t/H・機
- ・乾燥品含水率 20%以下

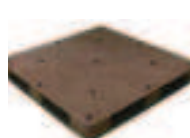
バイオプラ用原材料



- ・植物由来100%
- ・PPだけでなく、PE等との混合も可能

製品化

《バイオプラスチック製品》



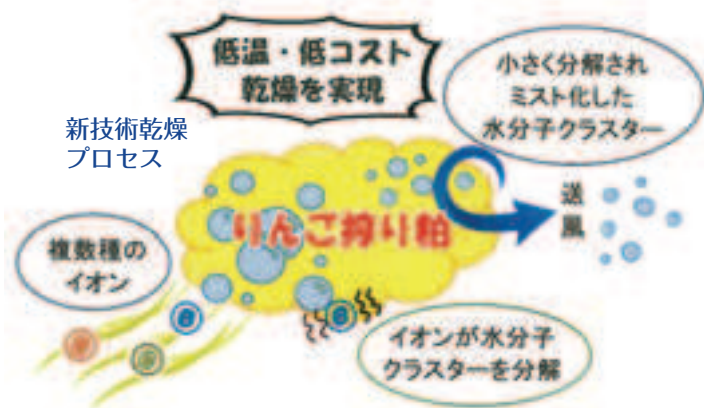
（パレット）



（農業用資材）

- ・りんご搾り粕を活用した、バイオプラスチック製品は**日本初**。

《バイオプラ製品化フロー》



プラスチックからの代替を促進。植物残渣の有効利用のみならず、環境負荷低減へも貢献し、SDGs（持続可能な開発目標）達成にも結びつく。また、青森県が進める「あおりみプラごみゼロ宣言」にも即した事業となる。

同社で製造・販売したバイオプラスチック用原材料をもとに、プラスチック製品製造会社が、プラスチック容器やパレット、農業用資材などの製品を製造する。

2 乾燥品を活用した更なる展開

JAアオレンでは、レドックスマスター乾燥機により既にリンゴ以外の様々な植物性残渣の乾燥技術を確立しており、その乾燥品活用による新たな製品開発にも取り組んでいる。

一例としてリンゴ粕乾燥品とその他の植物性残渣乾燥品を混同した、家畜用サプリメント飼料も開発し、牛への給餌テストも実施しているなど、更なる活用法についても研究を進めている。

こうした取り組みを通じ、残渣処理に課題を抱える業界を巻き込み、今後新たな事業を展開していくことで、農林水産業を取り巻く環境・社会課題の解決に貢献し、SDGsの目標達成に結び付く取り組みを続けていくことにしている。

3 県知事表敬

令和2年7月22日、JAアオレンでは、新会社「グレンカル・シナリー株式会社」の設立と今後の取り組みについて三村申吾青森県知事に報告するとともに報道機関向けの記者会見を行った。

また、JAアオレンの小笠原専務は「今回の取り組みは、環境に優しく、何よりも農家所得の向上に寄与し、生産者の意欲を高めることにつながる」と話した。

〈乾燥品を活用した主な取組み〉



三村申吾県知事を表敬



バイオプラ原料と初公開されたサンプル製品



輝き

J A全農あおもり
管理部 企画管理課
おおた けんろう
太田 健朗 さん

●プロフィール
平成30年4月から勤務 青森市出身 24歳

— 働くきっかけは？ —

青森県にとって重要な産業である農業に携わり、青森県の経済発展の一助になりたいと感じたからです。

— 業務内容を教えてください。 —

経営管理・分析、消費宣伝に関する業務。

— 働いた感想は？ —

企画管理課として業務を行った結果、各事業部の方々のお力になれた時に一番喜びを感じます。失敗することも多々ありますが、成長に必要な失敗はたくさんして、より事業部の方々のお力になれるよう努めて参ります。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

業務の優先順位をつけることや目的を考え行うことです。

— 特技・趣味は？ —

テニス、ドライブ等アウトドアな趣味が多いです。

— あなたが自慢できることは？ —

諦めない気持ちは強い方だと思っています。
また、入会時より体重が10キロ増加はなかなかの記録だと自負しています。

— 将来の夢は？ —

仕事の面においては、自分の力で誰かを助けることが出来るようになりたいです。
プライベートの面では、海外に行きたいです。
また、身振り手振りでのコミュニケーションしか出来ませんので、言葉（英語）で意思疎通が取れるようになりたいです。

米粉100%シフォンケーキ 直売所でも大人気



米粉シフォンケーキを
手作りしている舘田さん

弘前市大久保の舘田トモ子さんは、小麦粉不使用の「米粉シフォンケーキ」を手作りし、J Aつがる弘前農産物直売所「ひろさき新鮮組」などで販売している。

小麦粉や膨張剤を使用せず、自家製米粉と水分のバランスだけで、フワフワな食感に焼き上げている。日替わりで、自家栽培した旬の野菜や果物、木の实などを生地に混ぜ込んでいるため、味や風味、食感だけでなく、素材の鮮やかな色も楽しめる。

米粉を使用しているので腹持ちが良いと、農作業の休憩用に購入する人も多い。

2018年に、中南地域県民局の「農のふれカフェ」推進事業の一環として「農カフェ mecco cafe(めっこかふえ)」をオープンし、ホームページなどでも商品を紹介している。

舘田さんは「今年6月にA-HACCP(あおもりハサップ)を取得しました。小麦粉不使用なので、アレルギーの方でも安心して食べて頂けます。材料や製法にこだわった米粉シフォンケーキを、是非一度味わってください」と話す。シフォンケーキは人気商品につき売り切れが予想されるため、事前予約がお勧め。1袋約70グラム、250円(税込)で販売している。

問い合わせ先:「ひろさき新鮮組」

電話:0172(35)8828、または、舘田トモ子さん直通電話050(3631)1885まで。

記事提供: J Aつがる弘前

J A人の動き

絆7月号のJ Aおいらせの掲載内容に一部誤りがありましたので、お詫びしますとともに正しい内容は下記のとおりとなります。

O J Aおいらせ(令和2年6月26日付)

	誤	正
代表監事	今出川 弘(新)	久保 稔(再)
常勤監事	角 石次郎(再)	角 石二郎(再)

O J Aゆうき青森(令和2年7月30日付)

代表理事組合長 乙 部 輝 雄(新)
 代表理事専務(営農経済担当兼務) 天 間 一 博(新)
 代表理事常務(酪農畜産担当) 野田頭 和 義(新)

みりよく発信

祖父を目標に畑を守る 自分の農業スタイルめざす おいらせ町浜道 上久保 大造さん



ダイコンの初収穫に手ごたえ

おいらせ町浜道の上久保大造さん(23)は、祖父母の農業を継承し、今年から本格就農した。1年間の農業研修を経て、初めてのダイコンの収穫を迎え、農家として新たな一歩を踏みだした。実際に自分でやってみて作物を育てる難しさを痛感。祖父母の栽培技術を継承しながら「自分の農業スタイルをつくり、質の高い生産につなげたい」と意欲を燃やす。

ダイコン2.2ヘクタール、ナガイモ1.3ヘクタール、ゴボウ1.0ヘクタールを作付けする。就農前は会社勤めで、フォークリフト等、農業に関係する機械の整備が仕事だった。若手農家と接する機会も多く、頑張っている姿を見ているうちに「ちゃんとやれば儲かる。農家っていいな。自分の腕で稼ぎたい」という思いを強くした。

国の新規就農事業を活用し、ももいし支店管内の野菜農家、吉田良紀さんの畑で1年間研修した。同じおいらせ町で、作付けする野菜や作業形態、気候も似ている。「自分の畑のやり方しか知らなかったため勉強になった。今も親子で畑にきてアドバイスしてくれて心強い」と感謝する。

病害虫防除のタイミングなど、細かなところで迷いがでてしまうという。大造さんは「たくさん経験を積み、自分の理想とする農業を築きたい。儲かる農業につなげ、若い人たちをもっと農業に引き込みたい」と、夢を話す。

(日本農業新聞・青森県版7月9日掲載)

後編 記集

今、野菜がめっちゃくちゃ高い。市内のスーパーを毎日のようにぐるぐる回り、安いもの探しを日課にしているような生活を送っている。普段、袋1つ100円で買えるじゃがいもがなんと300円、ニンジンが200円、玉ねぎが250円とこれじゃあ、大好きなカレーライスも「いっただきまーす!!」という元気な声を張りあげて気持ちよく食べることもできない。案の定、先日、妻が「今晚、何食べたい」というので、即座に「カレーライス」とリクエストしたが、返ってきた返事は「今、野菜高いからしばらく我慢して」とびしゃり。へば「聞くなじゃよ」と思わず愚痴が・・・出た。(そもそも、冷蔵庫に材料が入っていないじゃねえか!)

全国的な梅雨明けの遅れからナス、キュウリ、かぼちゃ、長ネギも値段が高くて、こちら、しばらく我慢が続く。キュウリの入らない「冷し中

華」や長ネギの入らない「中華そば」は、そばじゃねえと思っているので何かが足りない。

この際、定番のトッピング外の材料を試してみるのも良さそう。これも新型コロナウイルスの影響からくる新ライフスタイルなのかも。

さて、今月号から新企画「JAアオレンNEWS」がスタートした。

JAアオレンは、県産の農産物を充実した設備と豊かな技術で、高品質で安全な製品・加工品を製造・販売しており、りんごジュースの「希望の乗」はお勧めだ。

新企画は、これまであまり掲載されなかった県内のJAやJAグループ青森関連団体の取り組み、イベント内容を紹介するコーナーです。さらにパワーアップした「絆」を今後もご愛読ください。(公)



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <http://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。
- JAバンク青森 <http://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- JA全農あおもり <http://www.am.zennoh.or.jp/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <http://www.jakyosai-aomori.jp/>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取り組みを紹介しております。

「食」と「農」 都市と農村 つなげる紙面

役立つ、得する、
楽しい情報が満載

●購読のお申し込みは **JA** へ
購読料 1カ月 2,623円(税込)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
<https://www.agrinews.co.jp>

知る、活かす、つなぐ～JAグループ情報共有運動



"Ienohikari"
家の光

5月号で
は創刊**95**周年

これからもJAと地域のみなさんの役に立つ
食と農の耳寄り情報をお届けしてまいります!



いま
“知りたい”

暮らしの旬のテーマを取り上げます

創刊95周年記念

今年の5・9・12・1月号は、別冊付録2冊付き!



食と農 暮らし 協 同 家 族

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ



定価(税込) ●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号)922円
●家計簿付き12月号 1,027円

JAグループ 家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町 11
TEL.03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>

年6回は
別冊付録付き





つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEQUIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



© やなせたかし

「GOTOトラベル キャンペーン」 受付中!

お申込み・お問い合わせは



(一社)日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業第939号
株式会社 農協観光青森支店
〒030-0847 青森市東大野二丁目1-15
総合旅行業務取扱管理者：伊藤 亨・田川ますみ
TEL 017-729-8800
FAX 017-729-8803

青森県知事登録旅行業者代理業第28号
JA 十和田おいらせ旅行センター
☎0176-23-0374
総合旅行業務取扱管理者／桜田 康子

青森県知事登録旅行業者代理業第26号
JA ゆうき青森旅行センター
☎0175-72-1433
総合旅行業務取扱管理者／八重樫泰浩

青森県知事登録旅行業者代理業第15号
JA 津軽みらい旅行センター
※現在“休業中”です

作品介绍

●令和元年度 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール（図画部門）



■優秀賞（図画部門第二部）

「おばあちゃんの家でお盆の準備」

弘前大学教育学部附属小学校

6年 川口真緒



■優秀賞（図画部門第二部）

「田植え」

十和田市立東小学校

6年 山名可恋